

#ここから! キャリアのヒント

日本女性学習財団では、女性のエンパワーメントをめざし、生涯にわたるキャリアデザインを男女共同参画の視点で支援する方を「(公財)日本女性学習財団キャリア支援デザイナー」として養成し、活動を支援しています。このコーナーでは、各地で活動するキャリア支援デザイナーが、キャリア形成や学びのヒントを発信します。



Vol.40 さまざまな現場でジェンダー視点を伝える

私は、2年前まで女性センターに勤務していましたが、現在は、大学非常勤講師2つと放課後児童クラブの学童支援員、そして防災士の活動というユニークな働き方をしています。

まず、非常勤講師として、園田学園女子大学では男女共同参画とデートDV防止をテーマに講義をしています。コロナ禍以降、デートDV防止の啓発活動は、SNS活用に切り替え、若者に人気のInstagramで学生と一緒に啓発画像をつくり、若い世代にダイレクトにメッセージが届く取組をしています(アカウント名:園田学園女子大つながりプロジェクト12 @st2020.12)。また地域連携として、尼崎市のイベントでデートDV防止講座を開催しました。ほかには、保育士や養護教諭、看護師などをめざす彼女たちのために、放課後児童クラブ(学童)で、小学生の生活支援体験も行っています。

京都精華大学では、コミュニケーションをテーマに、ダイバーシティやジェンダーについて教えています。この大学は、漫画や造形、デザインなどクリエイティブな学科が多いため、社会に発信する側の者として、ジェンダー、差別問題について理解を深め、敏感であってほしいと思い講義をしています。

民間放課後児童クラブ「トライアングル」では、支援員として、共働き家庭の子どもたちの放課後の生活支援とともにジェンダー教育、防災活動を行っています。平日の閉所は19時。駅近でもあり多少の残業は大丈夫!



京都精華大学での講義風景

特にフルタイム勤務の母親にとって安心のできる場所をめざしています。実は、大学生が体験に来るのはこの施設です。

そして、日本防災士会、兵庫県防災士会に所属し防災士としての活動。災害時に、より困難に遭いやすいのは、女性や子ども、高齢者、障害のある方など社会的に立場の弱い方々です。阪神・淡路大震災を経験した者として、体験を次世代に伝え、災害に備える社会を目指しています。

いわた 若田 さやか (第7期、兵庫県) 大学非常勤講師、放課後児童クラブ支援員、防災士。

背中を押された言葉

「You Can't Stop The Beat」、ミュージカル映画『ヘアスプレー』(2007)のフィナーレを飾る一曲。黒人差別やルッキズム等、あらゆる種類の差別解消への流れは、誰にも止められない、と高らかに宣言するこの曲のメッセージに、いつも力をもらっています。



きょうのキーワード 有害な男らしさ (トキシック・マスキュリニティ)

Toxic masculinity. 有害な男性性とも訳される。アメリカで使われ始めたとき、ニューヨークタイムズの記事「What Is Toxic Masculinity?」(2019)が引き合いに出されることが多い。有害な男らしさとは、「感情を抑えつらいと言わない」、「表面的なたくましさ」、「力をはかるための暴力性」だと記事にあり、銃乱射事件など凶悪事件の犯人が白人の男性に多いことから定義された背景があった。職場や学校、家庭、地域などの慣習の中や、男性としての

特権をもつことで、有害な男らしさを身につけるという構造がある。その結果、男らしいとされないマイノリティの排除や横暴にふるまうことでの力の誇示、また、女性へのDV・性暴力、あるいは過度な配慮など、さまざまな弊害が挙げられる。近年では「男性はこうあるべき」という古い価値観も指し、男性自身を苦しめるという視点からも語られている。ジェンダー平等を実現するには、有害な男らしさに気づくこと、再生産しないことが重要である。